

第35回 火山噴火予知連絡会議事録

日 時 昭和60年10月31日(木) 14時～17時

場 所 気象庁第一会議室(5階)

出席者

会長 下鶴

委員 岡田, 高木, 行武, 井田, 久保寺, 加茂, 太田, 小坂, 萩原** (科学庁), 高橋** (国土庁),
飯田** (文部省), 小野, 井上** (地理院), 佐藤(典), 高橋, 河村, 鈴置, 清野**
(気象庁), 原田, 平林* (東工大)

オブザーバ 田中(弘前大), 西出(国土庁), 湯本(文部省), 武田(地理院), 熊谷(防災セ),
吉田(気象庁)

庶務 田中, 横内, 中村, 大西, 小宮, 安藤, 山本, 岩下, 宇平

(注) *臨時委員 **代理出席 ()所属

1. 委員の交替等(鈴置委員)

力武常次から笠原慶一(測地学審議会・地震火山部会長)

横山 泉から岡田 弘(北海道大学理学部)

小坂丈子(東京工業大学工学部から岡山大学理学部)

文部省学術国際局学術課長 重藤学二から佐藤次郎

2. 第34回連絡会議事録の確認

前回の議事録案は一部修正のうえ承認された。

3. 最近の火山活動

3.1 桜島【田中(気象庁), 加茂委員, 原田委員】

本年の火山活動状況, 噴煙, 噴石, 降灰の観測結果等について説明。京大では, 春田山の地下に観測坑を整備した。坑内に設置した傾斜計, 伸縮計の噴火前の変化に興味ある結果が出ている。島内各観測点の地磁気の鹿屋との差の経年変化について報告。

3.2 阿蘇山【田中(気象庁), 原田委員】

最近の火山活動は静かであり, 地磁気の鹿屋との差の経年変化にも異常は認められなかった。

3.3 十勝岳【田中(気象庁), 岡田委員, 小坂委員, 井上(地理院)】

62-I火口で5月29日から6月2日ころ, 7月25日から28日ころに熱泥水の噴出があったが現在は静かである。6月20日には62-I火口で小噴火発生。降灰・火口赤熱・硫黄自然発火等があった。北大では, 4地点に地震計を設置, 道立地下資源調査所提供の2点と合わせ, 計6点で臨時地震観測を実施した。6月20日の小噴火に先行して, 6月13～15日には著しい微小地震の群

発が臨時観測で検出された。また、地震と噴煙量との関連等を調査した。昨年6月、本年6月及び8月の3回噴気ガス測定を行ったが、火山ガスの組成等から見て、活動は本年6月をピークに下降傾向にあると思われる。地理院は、火山基本図を作成中。

3.4 樽前山（岡田委員）

静穏であった。

3.5 北海道駒ヶ岳（岡田委員）

静穏であった。

3.6 岩木山【田中（弘前大）】

ここ2年ほどは静かであったが、10月にM=3クラスを含む群発地震があった。従来と同じ震源域内の活動だが、従来より深く、また、山から離れた位置にある。

3.7 岩手山【田中（弘前大）】

過去300℃前後あった地熱地帯の温度が今年98℃に下がっていた。

3.8 安達太良山【田中（気象庁）】

6月の定期現地観測で新しい噴気地域が発見された。

3.9 那須岳【田中（気象庁）】

那須岳の北方で時々地震が群発している。噴気活動に変化はない。

3.10 草津白根山（平林臨時委員、井田委員）

火山ガス組成や噴気温度は1983年の活動時より落ち着いてきているが、北斜面の噴気が105℃と高い状態を続けており、H₂も2倍になったままなど、まだ噴火前の状態に戻っていない。震研では今年度から3年計画で観測施設を作る。観測項目は、地震、地中温度、噴気温度、電気抵抗である。

3.11 伊豆大島【田中（気象庁）、行武委員、高橋委員】

8月に地震が増加した。震研の観測によると、震源は島内北部と元町の下に多く求められた。6月の水準測量では、火口域が沈降していることがわかった。三原山南斜面の全磁力は異常が続いている。8月27日06時03分、harmonic oscillation とも言うべき地震が発生した。

3.12 新島（高橋委員）

9月21日に地震が群発した。過去の時空間分布を見ると、伊豆諸島の群発地震は1～2箇月の間に相前後して起きるようにも見える。

3.13 大山【田中（気象庁）】

6月～8月に山の南東3kmほどのところでM=2～4の地震が群発した。

3.14 霧島山【田中（気象庁）、井田委員】

8月～9月、新燃岳山頂火口付近に地震があった。震研では、6月、8月及び10月に霧島山の各所で群発地震を観測した。これらの群発地震の分布、メカニズムから、南北に伸長するような構造モデルを考えている。

3.15 硫黄島【高橋委員、佐藤（典）委員】

地震回数、噴気温度、潮位の推移について報告。また、熱水の起源は化学組成、同位体組成から深部海水であると推定している。水路部では空中熱映像撮影を行った。

3.16 鳥島【佐藤(典)委員】

空中熱映像撮影を行った。

3.17 海底火山【佐藤(典)委員】

5月～10月の福徳岡の場、海徳海山、福神海山等の火山活動について報告。

3.18 御岳山(小坂委員)

1979年の噴火後、噴気温度は1982年まで上昇、1983年には低下した。しかし、1984年長野県西部地震後再び上昇している。長野県西部地震と、Heの同位体組成の変化、SO₂変化等について報告。

3.19 三宅島(小野委員)

溶岩流の温度の推移についての報告。

3.20 東北地方の火山(高木委員)

多数の自然地震を利用して、地表から地下百数十km付近までの、東北地方のP波、S波の速度構造を調べた。中央に南北に低速度の部分が並んでおり、岩手山、秋田駒ヶ岳付近は著しい。深い所では低速度域は西に寄っている。

4. その他

4.1 事務局連絡事項

- (1) 噴火予知連絡会報34号(5月の連絡会の内容)は、今印刷中で11月に配布できる。
- (2) 会報35号の原稿の締切は11月末とする。
- (3) 会報の配布部数を適切にするために、現在各機関等に利用状況等の照会を行っている。
- (4) 行政機関の委員の方は、異動等に伴う委員の交代があった場合は、事務局あて適宜連絡下さるようお願いする。
- (5) 会議の能率向上を図るため、報告する火山名を1週間前までに事務局に連絡下さるようお願いする。
- (6) 次回より、会議の資料のコピーは40部お願いする。

4.2 地震火山概況の配布

来月より、地震火山部発行の速報誌「地震火山概況」を毎月配布する。これに伴い、従来配布してきた「全国火山活動概況」は廃止する。

4.3 会長提案の件

下鶴：噴火予知連絡会の運営等についての提案に対する各委員の意見を求める手紙を出した。現在までのところ、地調、地理院、地磁気観から返事がきている。地調の小野委員から、予知連に地質関係の委員の増員が必要であるという意見がきているので、幹事会で諮りたい。

4.4 次回開催日

国際火山学会議の日程も考慮し、1月か2月に開催することとし、後日事務局が調整する。

提出資料

1. 国立防災科学技術センター研究速報 第69号

- 三宅島の火山現象に関する研究（その２） 防災センター
2. 国立防災科学技術センター研究速報 第70号
火山専用空中赤外映像装置の開発研究（第3報） 防災センター
3. 国立防災科学技術センター研究速報 第71号
火山専用空中赤外映像装置の開発研究（第4報） 防災センター
4. 火山地質図4
阿蘇火山地質図 地質調査所
5. パンフレット
「地震火山観測所」 弘前大学
6. 火山機動観測実施報告 第21号
青ヶ島・弥陀ヶ原・新潟焼山 昭和59年7～9月 気象庁

記者レクチャー

気象庁記者会見室 17時00分～17時30分

出席：下鶴会長，鈴置地震火山業務課長，田中火山室長